



県内経済 〈2月〉

概況

県内経済は、厳しい状況が続いているが、緩やかに持ち直している

電子部品の生産は前年を上回って推移しているものの、機械金属はやや足踏みの動きとなっているほか、木材も前年割れが続いている。建設は、公共工事が堅調に推移しているほか、住宅着工も前年を上回った。個人消費は弱いながらも持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善の動きが弱まっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、次世代通信規格5G関連製品の需要が堅調であるほか、車載向けも好調を維持し、4か月連続で前年を上回った。機械金属の生産額は、輸送機械で半導体不足から減産となり、2か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、製材品、普通合板（1月）ともに前年を下回った。公共工事請負額は、4か月ぶりに前年を下回ったものの、年度累計では前年を上回って推移している。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事で大口受注があり、2か月ぶりに前年を

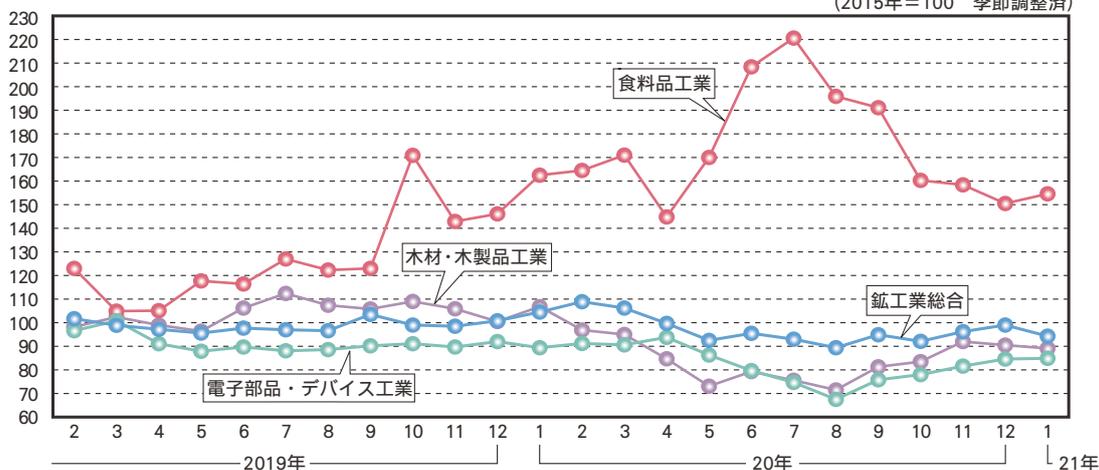
上回った。住宅着工は、3か月ぶりに前年を上回った。個人消費は、新車乗用車販売台数が5か月ぶりに前年を下回ったものの、小売店販売額（1月）は4か月連続で前年を上回るなど、全体として弱いながらも持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月と同水準の1.31倍となった。新規求人数は前年比12.0%増となり、22か月ぶりに前年を上回った。事業主都合離職者数は前年比32.9%増となり、11か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は前月に続き0件であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

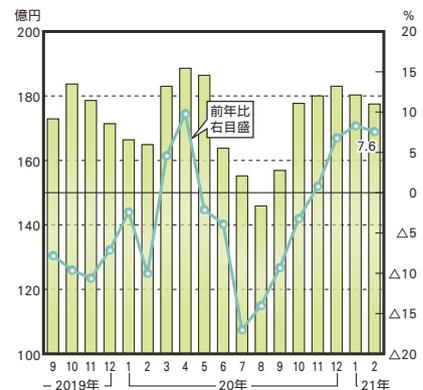
生産額、4か月連続で前年比増加

2月の生産額は前年比7.6%増となり、4か月連続で前年実績を上回り、高水準を維持している。

スマートフォンや基地局向け、パソコンやゲーム機など5G関連の製品が増勢を強めていることに加え、車載向けも、自動車生産が回復に向かうなか、世界的に半導体不足が叫ばれており、需要が高まっている。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは堅調に推移しているものの、下げ止まり感のあった産業向け液晶パネルは再び減少傾向にあり、半導体素子も減少に歯止めがかかっていない。

電子部品の生産額推移



(当研究所調べ、県内4社)

機械金属

生産額、2か月連続で前年比減少

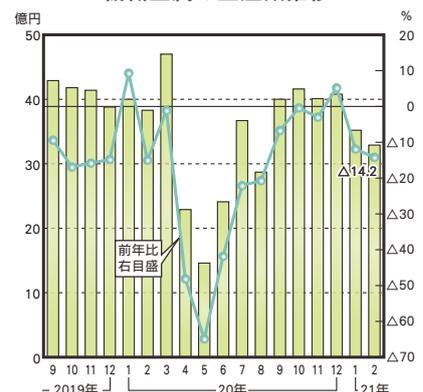
2月の生産額は前年比14.2%減となり、2か月連続で前年比減少となった。

ウエイトの高い輸送機械は、回復傾向にあったものの、半導体不足から、一部で生産ラインを止めるなど減産しているメーカーが出ており減少傾向にある。

その他民需関連では、金型は持ち直しの動きがみられ、建機部品は一進一退の動きが続いている。製鋼品は減少に歯止めがかかっていない。

公共工事関連では、水道部品は堅調に推移しているものの、橋梁・鉄骨は大幅減が続いている。

機械金属の生産額推移



(当研究所調べ、県内8社)

木材業

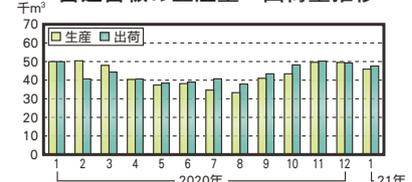
普通合板の出荷量が再び前年比減少

全国的には、新設住宅着工戸数の減少と新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、不需求期に入り、普通合板、製材品とも生産水準を落としているが、出荷量には弱いながらも持ち直しの動きが窺える。一方、県内では今冬の大雪の影響もあり、普通合板の出荷量が再び前年割れに転じている。

1月の普通合板は、生産量が前年比8.1%減と11か月連続で減少し、出荷量も同4.6%減と前年比マイナスに転じた。

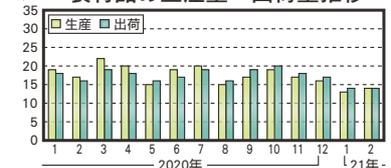
2月の製材品は、生産量が前年比17.6%減と11か月連続で前年を下回り、出荷量も同12.5%減と13か月連続の減少となったが、いずれもマイナス幅は前月よりも縮小した。

普通合板の生産量・出荷量推移



資料：秋田県農林水産部林業木材産業課

製材品の生産量・出荷量推移



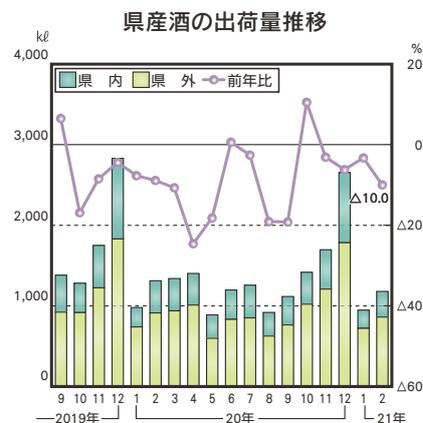
資料：農林水産省「製材統計」

酒造業

出荷量、前年比二桁減

2月の清酒出荷量は、前年比10.0%減と4か月連続で前年を下回った。東京など10都府県を対象とする緊急事態宣言の発令により業務用市場が落ち込み、二桁の減少率となった。出荷先別では、県内向けは同20.2%減、県外向けも同5.6%減となった。県外の主な出荷先別では、東北5県が同2.9%減、東京は同16.5%減、北海道も同14.4%減と前年を下回ったが、その他は同6.5%増と前年を上回った。

種類別では、普通酒が前年比5.8%減、特定名称酒は同14.8%減となった。特定名称酒の内訳では、吟醸酒が同5.3%減、純米酒は同22.4%減、本醸造酒も同25.7%減となった。



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国や県等が減少し、4か月ぶりに前年比減少

2月の公共工事請負金額は、市町村が増加したものの国や県等が減少し、前年比46.6%減と4か月ぶりに前年を下回った。4月からの年度累計実績は前年同期比6.1%増とプラスを維持したが、伸び率は前月より縮小した。

一方、当研究所調査による地元大手12社の2月の新規受注額は、前年比41.2%増の1,484百万円と2か月ぶりに前年を上回った。民間工事は、土木、建築とも振るわず同69.3%減と前年を下回ったが、官公庁工事は、道路改良等の大口受注があり同84.5%増と伸びた。ただし、年度累計実績では、前年同期比28.4%減と前年を下回る。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	2月	前年比	2020/4~21/2月	前年同期比
件数	60	62.2	2,409	△1.1
請負金額	4,600	△46.6	161,363	6.1

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	2月	前年比	2020/4~21/2月	前年同期比
官公庁	1,393	84.5	14,952	△17.8
民間	91	△69.3	4,455	△50.1
合計	1,484	41.2	19,407	△28.4

(当研究所調べ、県内12社)

金融

企業倒産、2か月連続で発生ゼロ

2月末の県内銀行の預金は、前月末比79億円増加し、前年比でも10.1%の増加となった。貸出金は、前月末比111億円増加し、前年比でも10.7%の増加となった。資金需要が高まっているほか、一部企業で手元資金を厚くする動きがみられ、預金、貸出金とも前月に続いて前年比二桁の増加率となった。

2月の倒産件数（負債総額1千万円以上）は0件（前年比3件減）、負債総額は0円（同100.0%減）と、前月に続いて倒産が発生しなかった。1971年の集計開始以降では、2018年10月、2020年5月、2021年1月に次いで4度目の倒産発生ゼロとなった。



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

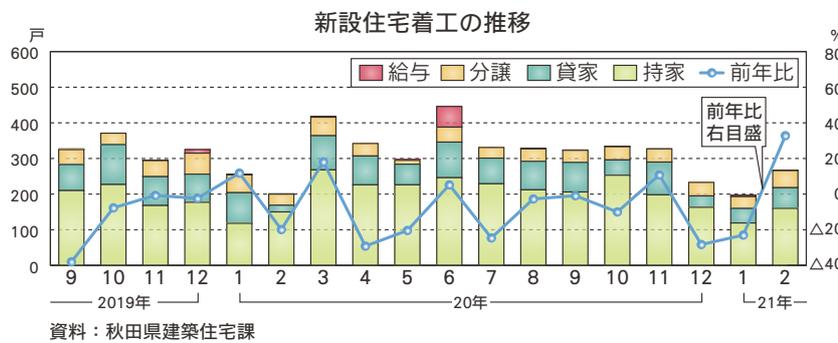
着工戸数、3か月ぶりに前年比増加

2月の県内新設住宅着工戸数は、267戸（前年比66戸増、32.8%増）であった。主力である持家と、分譲住宅が前年を上回ったほか、貸家も大幅に増加し、3か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別では、持家が160戸（前年比10戸増）、貸家が58戸（同39戸増）、分譲住宅48戸（同17戸増）、給与住宅1戸（同横這い）となった。

持家は、2か月連続で前年を上回った。貸家は、にかほ市と秋田市で民間の賃貸住宅が増加し、3か月ぶりに前年を上回った。分譲住宅も、4か月ぶりに前年を上回った。

地域別では、県北・県央・県南の全地域で前年を上回った。県北は持家と分譲住宅、県央は持家と貸家、県南は分譲住宅の着工が各々増加した。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2021年2月	前年比	21年1~2月	前年比
県北	38	52.0	62	1.6
県央	181	32.1	303	0.0
県南	48	23.1	99	6.5
合計	267	32.8	464	1.5

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

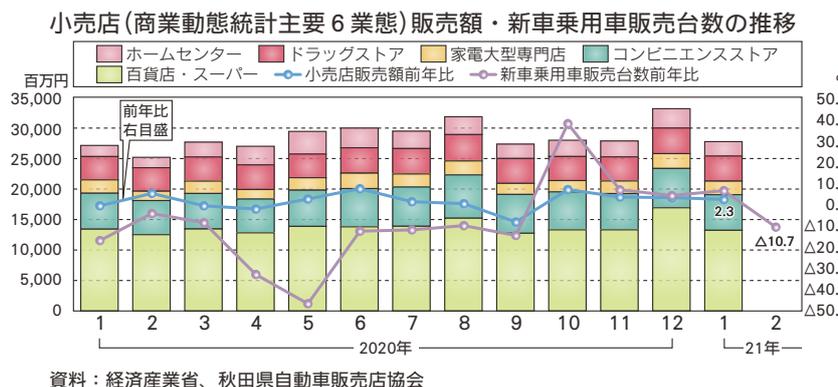
全体として弱いながらも持ち直しの動き

1月の小売店(商業動態統計主要6業態)販売額は、前年比2.3%増となり、4か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、百貨店・スーパー(同1.4%減)、コンビニエンスストア(同0.8%減)で減少したものの、ホームセンター(同29.5%増)、ドラッグストア(同7.8%増)、家電大型専門店(同1.3%増)で増加した。

2月の新車乗用車販売台数は、前年比10.7%減となり、5か月ぶりに前年を下回った。

内訳をみると、登録車は、同10.6%減と2か月ぶりに前年を下回ったほか、軽乗用車も同10.9%減と5か月ぶりに前年を下回った。



2月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,621	△10.7
登録車	1,424	△10.6
普通車	669	0.8
小型車	701	△18.2
輸入車	54	△25.0
軽乗用車	1,197	△10.9

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比) (単位：%)

区分	11月	12月	1月
①消費者物価指数	△1.7	△1.6	△0.9
②勤労者名目賃金	6.0	△1.8	3.5

資料：①秋田県(総合指数、秋田市)
②秋田県(事業所規模5人以上)

衣服・繊維

生産額、3か月ぶりに前年比減少

2月の生産額は、前年比17.1%減となった。新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛等の影響を受け、一般衣料が大幅に減少し、3か月ぶりに前年を下回った。

受注は、一般衣料の減少を医療用ガウンが下支えし、2か月連続で前年を上回った。



雇用

有効求人倍率、前月と同水準の1.31倍

2月の有効求人倍率は、前月と同水準の1.31倍となった。常用の内訳では、一般は前月比0.03ポイント低下の1.26倍、パートは同0.09ポイント上昇の1.35倍となった。新規求人の増加など一部に持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響から依然として改善の動きが弱まっている。

新規求人数は前年比12.0%増となり、22か月ぶりに前年を上回った。産業別にみると、製造業は同10.8%増となった。「情報通信機械」、「木材・木製品」で減少したものの、「電気機械器具」などで増加した。非製

造業は同12.1%増となった。「生活関連サービス、娯楽」、「宿泊、飲食サービス」などで減少したものの、「情報通信」、「サービス」などで増加した。

新規求職者数は前年比5.9%増と、17か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比32.9%増と、11か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況 (パートを含む常用) をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも増加した。有効求人倍率は県北が最も高く1.45倍、県央が1.31倍、県南が1.14倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数 (全数)

区分	2021年1月		2月		
	前年比	前年比	前年比	前年比	
新規求人計	8,002	△6.1	9,183	12.0	
製造業	721	7.6	739	10.8	
主要業種の内訳	食料品	162	8.0	103	3.0
	繊維	114	0.9	144	19.0
	木材・木製品	32	△3.0	20	△28.6
	電子部品・デバイス・電子回路	96	△2.0	147	77.1
	電気機械器具	35	94.4	38	90.0
	情報通信機械	19	137.5	4	△75.0
	非製造業	7,281	△7.2	8,444	12.1
内訳	建設	1,073	15.0	1,076	21.6
	情報通信	48	△42.2	44	41.9
	運輸、郵便	334	△19.1	377	15.3
	卸売、小売	1,241	△17.2	1,371	8.6
	宿泊、飲食サービス	579	△10.4	699	△10.7
	生活関連サービス、娯楽	235	△25.9	288	△11.4
	医療、福祉	1,855	10.4	1,723	△0.3
	サービス	1,098	30.2	1,084	27.7
	新規求職者数	4,032	△18.2	4,487	5.9
	有効求職者数	15,983	1.8	17,380	7.0

(単位: 人、%)

資料: 秋田労働局職業安定課 (注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区分	有効求人倍率 (単位: 倍、人、%)				
	2020年11月	12月	2021年1月	2月	
有効求人倍率	一般	1.23	1.30	1.29	1.26
	パートタイム	1.18	1.21	1.26	1.35
	全数 (季調済)	1.23	1.23	1.31	1.31
事業主都合離職者数		173	162	221	190
	前年比	6.1	5.9	12.2	32.9

2月の地域別雇用状況 (パートを含む常用)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,905	4.2	1.45	△0.02
県央	4,159	15.7	1.31	0.03
県南	2,114	4.8	1.14	0.01
合計	8,178	9.9	1.29	0.01

(単位: 人、%、倍、ポイント)

(注) 臨時・季節を除く